

令和8年8月5日

京都経済情勢報告

(令和8年7月判断)

1. 総論

【総括判断】「京都府内の経済情勢は、緩やかに回復しつつある」

項 目	前回 (8年4月判断)	今回 (8年7月判断)	前回 比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

(注) 8年7月判断は、前回8年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、回復しつつある。生産活動は、持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回 (8年4月判断)	今回 (8年7月判断)	前回 比較
個人消費	回復に向けたテンポが緩やかになっている	回復しつつある	→
生産活動	持ち直している	持ち直している	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
観光	回復している	回復している	→
設備投資	7年度は前年度を上回る見込みとなっている	8年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	7年度は増益見込みとなっている	8年度は減益見込みとなっている	↘

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、前年を上回っている。百貨店販売額は、インバウンド需要により免税売上げが好調となっていることなどから、前年を上回っている。スーパー販売額は、物価高の影響により販売価格が上昇していることなどから、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、物価高の影響により販売価格が上昇していることなどから、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、税制改正に伴う一時的な買い控えがあった3月の反動を受けたことなどから、前年を上回っている。

家電販売額は、一部の商品に駆け込み需要がみられたことなどから、前年を上回っている。

ドラッグストア販売額は、物価高の影響により販売価格が上昇していることなどから、前年を上回っている。

ホームセンター販売額は、一部の商品で特需がみられたことなどから、前年を上回っている。

これらのことから、個人消費は回復しつつある。

- 円安の影響もあり、外国人観光客の旺盛な需要が続く、免税売上げは伸びている。また、株高による資産価値上昇に伴い、富裕層の購買意欲が高まっており、外商が非常に好調である。(百貨店)
- 日用品などの生活必需品では節約志向が継続しているものの、高価格帯の肉・魚・スイーツなどのプチ贅沢商品の売上げは好調に推移しており、顧客のメリハリ消費が定着しつつある。来店客数が概ね横ばいで推移する中、客単価が上昇しており、全体としては堅調に推移している。(スーパー)
- 来店客数が概ね前年並みで推移しているものの、客単価の上昇に伴い売上高は増収。節約志向を感じる一方で、推し活需要など好きなことにはお金をかけるといった消費の二極化が進んでいる。(コンビニエンスストア)
- 令和8年4月の自動車税環境性能割廃止に伴い、例年乗換え需要が集中する3月の登録・受注台数が大きく減少し、4月にずれ込んだため、登録台数は前期比・前年比で増加した。(自動車販売)
- 2027年からのエアコンの省エネ基準見直しを背景としてエアコンの買換需要の高まりがみられた。また、4月は新生活需要により洗濯機や冷蔵庫などの大型白物家電の売行きが好調であった。(家電量販店)
- 昨今の物価高の影響を受けて、あらゆる商品の単価が上昇していることや、高単価の理美容品がインバウンド客向け、日本人客向けともに好調であることなどから、前年比でみると増収。(ドラッグストア)
- 中東情勢の影響を受けた資材の不足を懸念した者による工事資材や工具のまとめ買いがみられたほか、省エネ基準の見直しによるエアコン本体及び周辺部材の駆け込み需要がみられた。(ホームセンター)

■ 生産活動 「持ち直している」

鉱工業生産指数でみると、電気機械などが下降しているものの、窯業・土石、輸送機械などが上昇している。また、企業からは、自動車関連部品が好調であるほか、世界的なデータセンター増設の流れを受け、半導体関連製品の需要が引き続き高水準で推移しているとの声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は持ち直している。

- 中国国内において、生成AI関連の半導体製造装置の需要が堅調である。(電気機械)
- 自動車関連部品について、4～5月は前年同月を下回っているが、前年の生産が非常に高い水準であった反動を受けるものであり、需要は底堅く、引き続き高水準で推移すると考えている。(輸送機械)
- 世界的に生成AI向けのデータセンター需要が拡大する中、半導体関連製品の受注が伸長しており、非常に好調。(生産用機械)
- 中東情勢の影響により、ナフサなどの原材料価格は上昇しているものの、原料調達や物流に大きな影響は生じていない。一方、4月に主力製品の値上げを実施したことから、売上増加に寄与している。(化学)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、概ね横ばいで推移していることなどから、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 全体的に見ればやや不足している。一部新規事業の急速な立ち上がりに対応できる製造人員が不足しており、元製造部門にいた社員を異動させるなど社内でカバーするほか、派遣社員の増員で補っている。(化学)
- 人手不足を補う取組みとして、社内での稟議を電子化したほか、秋以降、支払代行を活用し経理業務を本部で一括管理する予定。(宿泊)
- 自動車整備士について、普通科の高卒採用を数年前から行っており、入社後に資格取得に向けて教育しているが、資格の取得には最低3年を要することから、モチベーションを維持できず、他業界に流れてしまう若手が多い。(小売)
- 技術者や営業などの売上げに直結する人材が特に不足している。(建設)

■ 観光 「回復している」

外国人利用割合が前年を下回って推移しているものの、平均客室単価は前年を上回り、客室稼働率が概ね前年並みを維持していることなどから、観光は回復している。

- 客室稼働率は、高水準を維持しているものの前年同月は下回っている。一方、客室料金引上げにより、売上げは概ね前年並みを確保しており、想定通りの業績となっている。なお、客室料金については、状況を見ながら、今後も引き上げる方針。(宿泊)
- 花見需要や安定した気候により観光需要が拡大基調にあったことから、客室稼働率が9割強、外国人客比率が8割程で推移するなど好調。中国人団体客は減少しているが、台湾・米国・オーストラリアからの宿泊客が増加していることから、外国人客全体でみると前四半期よりも多くの客数を確保できている。(宿泊)

■ 設備投資 「8年度は前年度を上回る見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4～6月期

製造業では、繊維などが前年度を下回っているものの、生産用機械、電気機械などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

非製造業では、金融・保険などが前年度を下回っているものの、宿泊・飲食サービス、不動産などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「8年度は減益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年4～6月期

製造業では、生産用機械などが増益となるものの、業務用機械、化学などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

非製造業では、不動産などが減益となるものの、宿泊・飲食サービス、医療・教育などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設

新設住宅着工戸数(後方3か月平均)でみると、前年を上回っている。

■ 公共事業

前払金保証請負金額累計でみると、前年を下回っている。

■ 企業倒産

倒産件数は、前年を下回っている。

■ 企業の景況感

法人企業景気予測調査(8年4～6月期調査)の景況判断BSIでみると、現状判断は全産業で「下降」超となっており、規模別では、大企業は「上昇」と「下降」が均衡、中堅企業、中小企業は「下降」超となっている。先行きについては、全産業で「下降」超で推移する見通しとなっている。

連絡・問合せ先 京都財務事務所財務課 Tel.075-752-1418